



～地域とともにある学校をめざして～

鯨コミ

R6年度 CS通信No.15 R7.3.17



(コミュニティ・スクール通信) 文責 社会教育推進 DC 藤田昭彦

西海小学校 4・5年生のふるさと学習(3/5)



おおしかり
大然地区では、80年前の昭和20年3月22日に雪泥流災害が発生し、一瞬にして集落がのみ込まれ、多くの人命が失われました。

今回は、町総括学芸員の中田書矢氏の案内で、生存者が避難したおおやまつみ
大山祇神社に登ったり、遭難者追悼碑に書かれてあることを調べたりしました。

また、地域学校協働活動推進員の工藤律子さんの呼びかけで、10名の学校支援ボランティアが集まり、大山祇神社に登る時の安全確保や山道と一緒に歩いて説明を聴く等の支援を行いました。

学校支援ボランティアの皆さんは、「災害が起きた3月の雪の多い時期に来るのは初めてで、緊迫感を感じた。」

「大山祇神社は、山の上にあるので、行き帰り、滑って転ばないように気をつけさせた。」

「地域住民ということでお手伝いを初めてお願いされたが、声がかかればいつでも協力したい。」と話していました。

郷土カルタ交流会の開催(3/10)



鯨ヶ沢町の小中学校では、ふるさと学習の一環として、町の歴史や文化を学ぶ郷土カルタに取り

組んでいます。

この日は、西海小4・5年生と舞戸小5年生で、郷土カルタ交流会を開催しました。

西海小学校は、毎年、校内カルタ大会で競技していますが、舞戸小学校は、競技として行うのは、今回が初めての経験です。

競技は、西海小児童と舞戸小児童が対戦するよう組み、3回相手を替えて行いました。

最初は、校内カルタ大会で競技に慣れている西海小児童が圧勝するかと思いましたが、舞戸小児童も日頃の練習の成果を発揮して、接戦に持ち込み、どちらが勝つかわからない熱戦が続きました。

競技終了後の感想発表で、子どもたちは、「最初は緊張したが楽しかった。」

「一緒にカルタができて良かった。」

「相手は強く、様々な技を知ることができた。」

「今日のことを生かして、またがんばりたい。」と話していました。

西海小学校 2年生 かけ算をマスター(3/11)



算数の時間、学校支援ボランティアが7名入り、児童が解いた答えに丸つけをしました。

初めは、子どもたちも学校支援ボランティアの皆さんも慣れないようでしたが、時間が経つにつれ、スムーズに丸つけが進みました。

学校支援ボランティアの皆さんが丸つけをしてくれるので、担任の先生方は、なかなか進まない子に個別に指導することができます。

ボランティアの皆さんに感想を聞いてみると、「丸つけが正しいか心配で緊張するが、楽しい。」
「自分でもかけ算をしながら丸つけをするので、頭の体操になる。子どもたちの頑張りはずごい。」と笑顔で話していました。